

市民力・地域力を結集し

前橋の魅力を発信



前橋市長 高木政夫

市民の皆さん、新年明けましておめでとうございます。

昨年1年間を振り返りますと、中核市への移行や富士見村との合併が実現するなど、本市のさらなる発展に向けた大きな飛躍の年、「新生・前橋市」の誕生という感慨深い年となりました。

県内初となる中核市への移行により、多くの事務が移譲され、きめ細やかな行政サービスを提供できるようになりました。中でも保健所では、新型インフルエンザ発生に伴う「発熱電話相談センター」の設置など、速やかな対応をとることができました。また、富士見村との合併では、赤城山の山頂までが市域となったことから、今後、環境

分野や観光面などにおける活用の可能性が期待されます。

こうした中、折からの世界的な不況の影響で、本市の財政状況も厳しいものとなり、本年度は市税収入の減収をはじめ、30億円を超える歳入の減少が見込まれています。このような状況において、市政運営を確実なものとするためには、本市が進むべき方向に経営資源を重点配分していくことが大切です。

そこで、昨年実施した行政評価の結果と、各部の重点方針・事業を踏まえ、平成22年度の行政経営方針を「任んで安心、暮らして満足。生命都市前橋の魅力を発信します」と定めました。

本市は、県内12市で最初に「中学校卒業までの子ども医療費無料化」を開始したほか、全国に先駆けて「幼児2人同乗用自転車の購入費補助」を実施するなど、「暮らしやすさ」を高める新しい取り組みを積極的に進めてきました。また、健康診査やがん検診の受診方法など、既存事業についても市民の皆さんが利用しやすいように見直しを行ってきました。

新年度も、「子どもを育てるなら前橋で」をさらに実感していただけるような子育て施策をはじめ、介護予防、CO₂削減やごみ減量化といった環境問題への取り組みなど、創意工夫を凝らし、「暮らし優先」の視点で事業を推進していきます。

さらに、「魅力の発信」という点では、本市の観光資源を生かした「観光基本計画」の策定を進めるとともに、「赤城山の魅力向上」に重点をおいたさまざまなアイデアづくりや、遊休農地の活用から生まれた芋焼酎や落花生を「赤城の恵」ブランドとして発信いたしま

す。また、市民の文化芸術活動の拠点となる美術館構想の推進につきましても、今後、具体的な検討を進めていきます。

なお、平成23年には、JR各社と地元自治体・関係団体が連携して「群馬デスティネーションキャンペーン」が開催されます。このキャンペーンを、知名度やブランド力の向上につながる絶好の機会ととらえ、本市の魅力を意欲的にアピールしていきます。

わたしは、市長に就任して以来、「元気で楽しい、魅力ある前橋」づくりに取り組んできましたが、市民の皆さんには、引き続き、「市民力・地域力」を結集していただき、大きな自信と誇りを持って、前橋の素晴らしさや魅力を発信していただきたいと考えています。

結びに、本年が、34万市民の皆さんにとりまして、希望に満ちた1年となりますようご祈念申し上げますとともに、市政への一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。新年のごあいさつといたします。

迎春 2010

明けまして
おめでとうございます

平成二十二年 元旦

前橋市議会議員一同

明けまして
おめでとうございます

平成二十二年 元旦

前橋市行政自治委員一同